

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	56	学 校 名	茨城県立竜ヶ崎第二高等学校				課程	全日制		学校長名	高野 健二							
教頭名	為貝 祐一								事務(室)長名	石引 奈緒美								
教職員数	教諭	3	2	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技 術 員 等	3	計	4	9
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通科	3	5	4	5	3	3	4	4	2	5	5	1	4	0	6		
	商業科	1	6	2	4	1	5	2	3	1	7	2	1	4	8	6	8	3
人間文化科	3		3	7	3		3	6	0		3	5	6		1	0	8	3

2 目指す学校像

1	社会に開かれた活力と意欲に満ちた学校
2	確かな学力と豊かな心、健やかな体を育成する学校
3	社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人材が育成される学校
4	望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財が育つ学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人財 望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、就職から大学進学までの幅広い生徒の進路希望の実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 学校や社会の規律を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに取り組む意欲のある生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 校内のICT教育環境の整備にともない、ICT機器活用のため、特にロイロノート研修が随時行われた。 ② 探求的な活動を中心に据え、生徒の課題解決能力を高めるために、総合的な探究の時間を充実させるための方策が求められている。 ③ AIドリルの活用率向上や授業内容の工夫・改善を行うことにより、生徒の学習意欲を向上させる必要がある。 ④ 家庭学習に費やす時間が少ない生徒が多い。 ⑤ 放課後及び長期休業中の課外参加者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ICT環境を生かした教育活動を展開するための研修を実施し、ICT機器の活用促進を図る。教科担当者のスキル向上を図る。 ② 思考力・判断力・表現力を高めるために、総合的な探究の時間の研究や研修を推進する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業における言語活動を活発化し、効果的にICTを活用し、授業への参加意識を高める。 ④ 学校生活等を記録する手帳の積極的な活用により、学習意欲及び学力の向上を図るとともに、家庭学習の定着を図る。 ⑤ 放課後及び長期休業中の課外への参加を促すため、低学年からのキャリア教育の充実を図り、早い段階から積極的な働きかけをする。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 1・2年生の進路意識は、入学時より3年間を見通した進路指導計画を立てることで徐々に向上しつつある。 ② 大学進学者数は増加傾向にある一方で、専門学校進学を安易に考える生徒も見受けられる。進路意識の向上と先を見据えた進路指導が必要である。 ③ 就職希望者に対するサポート体制の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 第1希望の進路実現を達成するため、将来を見通した3年間の組織的・系統的なキャリア教育体制を構築し、計画的な進路指導を展開する。 ② 上級学校進学を目指す生徒に対しては、早い段階から手をかけ、外部と連携した進路指導の充実と、長期休業中の効果的な進路指導対策を講じる。 ③ 就職希望者及び保護者に対する面談を充実させると共に、各種資格試験の合格率向上に向け、継続的・実践的な指導を行う。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本的な生活習慣にかかる指導(身だしなみ・あいさつ・清掃・時間を守る)は継続した指導が必要である。 ② 生徒と教師の良好な関係づくりに努め、いじめ問題の早期把握・未然防止を図るための手立てを講じる。 ③ 自転車による交通事故が多く、注意喚起が必要である。 ④ 多くの生徒が経済的理由によりアルバイトをしており、学習活動や部活動、進路活動にも影響を与えている。保護者と協力した適切な対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 遅刻指導や服装指導を徹底し、基本的な生活習慣を確立させる。 ② 定期的、随時の面談とアンケート調査を実施するとともに、定期的に「いじめ防止対策推進委員会」を開催し、生徒の実態把握に努め、全教職員で情報の共有を図る。また、積極的にスクールカウンセラーを活用する。 ③ 自転車通学者に対しては運転ルールを厳守する意識を高揚させ、命の大切さの理解を促し、交通事故防止に努めさせる。努力義務化されたヘルメット着用を推進する。 ④ 経済的事情でアルバイトをする生徒に対しては、目的を見失わないよう学校と保護者の協力のもと適切な指導を行う。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒会活動を更に活性化する方策を講じる必要がある。 ② 部活動の加入率は約3割弱である。また、年度途中で退部する生徒もいる。部活動への興味関心を高めるための更なる対策が必要である。 ③ 地域活動への積極的な参加を推進し、地域社会や地元小・中学校及び大学との連携を強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的に企画し行動する生徒会役員並びに実行委員会委員の育成を推進する。 ② 部活動加入率向上に向け、あらゆる機会をとおして部活動への加入の呼びかけや活動実績などの報告により、生徒の興味関心を高める。 ③ 龍ヶ崎小学校及び美浦特別支援学校との連携事業をはじめとし、地域のボランティア活動やリーダー研修会などへの積極的な参加を促進する。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ① 校務について偏りの解消、精選、効率化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 全職員が柔軟に学校運営に関わる組織体制を構築するため、校務分掌を細分化するとともに、業務の見直しや会議の効率化を図る。

5 中期的目標

- (1) 教育活動の改善充実により確かな学力を育み、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の体験的活動の充実を通して豊かな心と健やかな体を育てると共に、組織的な進路指導体制の構築を図る。
- (2) 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の向上および安全教育の徹底を図りながら、社会の諸課題に対応して生き抜く力を育む。
- (3) 学校・家庭・地域社会の連携協力の推進により、社会に開かれた活力と意欲に満ちた学校づくりを図り、外部機関との連携を強化し、地域社会の振興に貢献できる資質能力を育てる。
- (4) 持続可能な教育体制を構築するために、学校における働き方改革を推進し、ワークライフバランスがとれる業務改善を促進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びの実現のための BYOD 端末等の活用 (ロイロノートの積極活用) ② 一体化された「指導と評価」の実践 ③ 基礎学力の向上を図るために ICT 機器の活用した授業の実践 ④ 教科等を横断した探究活動を通じた課題解決力能力の育成と発表等による表現力の醸成
生徒の希望や目標の実現	<ul style="list-style-type: none"> ① 資格取得試験の受験支援や課外指導の充実
社会で活躍するための基礎的な力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 生活マナーや規範意識の向上と安全能力の育成 ② HR・生徒会活動への支援や学校行事の充実 ③ 個別面談や定期的なアンケートの実施と教育相談の充実
社会に開かれた魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① ボランティア活動および地域の活動への積極的参加 ② 近隣小中学校との教育交流及び地域と連携した取組を外部への積極的な情報発信
働き方改革への取組	<ul style="list-style-type: none"> ① ワークライフバランスを意識した教職員の業務改善 ② 取組についての生徒、保護者等への周知
キャリアパスポートの運用	<ul style="list-style-type: none"> ① 過去の進路計画をもとに将来を見通した 3 年間の組織的・系統的なキャリア教育体制の構築
授業改善推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒による授業評価アンケートの平均値：3.0 以上をめざすとともに、授業互見を通じた各教員のメタ認知力の向上